細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

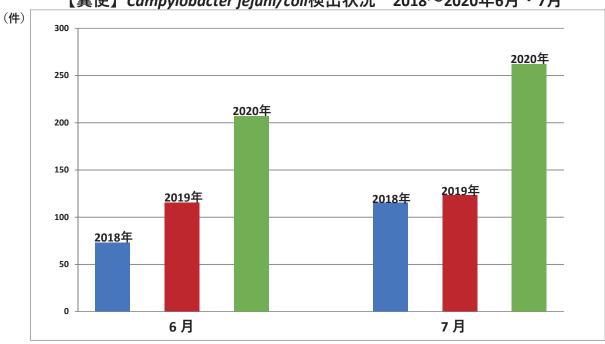


当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況及び細菌薬剤感受性情報を一部 取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されています ので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、2018~2020年6月・7月の糞便からの Campylobacter jejuni/coli の検出状 況と、薬剤耐性菌分離状況について掲載いたします。

【細菌検出状況】





上記のグラフは、2018~2020年6月・7月の Campylobacter jejuni/coli の検出状 況をまとめたものです。2018年、2019年と比較し、2020年では約2倍検出されています。 Campylobacter jejuni/coli は動物(ニワトリ、ウシ、ブタなど)の消化管内に常在 し、加熱不十分な汚染食物を介してヒトに感染症を起こします。牛乳、水などによる大 規模な食中毒や、鶏肉からの感染も多いです。

食中毒予防の3原則は「食中毒菌を付けない・増やさない・やっつける」です。加熱 して調理する食品は、十分に加熱することで食中毒の発生を予防できます。加熱の目安 は、中心部の温度が75℃で1分間以上といわれています。

【薬剤耐性菌分離状況】 2020年7月分

耐性菌名		呼吸器系		消化器系		泌尿器系		血液·穿刺液系		その他(膿など)	
		耐性率(%)	件数	耐性率(%)	件数	耐性率(%)	件数	耐性率(%)	件数	耐性率(%)	件数
ESBL (基質特異性拡張型 β-ラクタマーゼ産生菌)	Escherichia coli	43%	12	4%	3	32%	135	42%	8	41 %	11
	Klebsiella pneumoniae	9%	6	0%	0	23%	12	0%	0	0%	0
	Proteus mirabilis	79%	15	0%	0	58 %	21	100%	2	64%	7
	Klebsiella oxytoca	0%	0	0%	0	8%	1	0%	0	0%	0
CRE(カルバペネム耐性腸内細菌科細菌)		0.63%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0
MDRP(多剤耐性緑膿菌)		0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0
MBL(メタロ <i>β-</i> ラクタマーゼ産生菌)		0%	0	0%	0	2%	1	0%	0	2%	1
MDRA(多剤耐性アシネトバクター)		0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0
MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)※1		60%	134	36%	10	45 %	18	60%	6	35%	134
PRSP(ペニシリン耐性肺炎球菌)		0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0
VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)		0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0
BLNAR(β-ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性 H.influenzae)		15%	14	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0
BLPAR(β-ラクタマーゼ産生アンピシリン耐性 H.influenzae)		1%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0
BLPACR(β-ラクタマーゼ産生アモキシシリン・クラブラン酸耐性 H.influenzae)		5%	5	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0

耐性率 = (材料別耐性菌件数) ÷ (材料別対象菌件数) × 100 ※1 耐性率 = (材料別 MRSA 件数) ÷ (材料別黄色ブドウ球菌件数) × 100

7月は、メタロ β -ラクタマーゼ(MBL)産生菌が泌尿器系から1件、その他(膿など)から1件検出されています。MBL は、カルバペネム系薬をはじめとするモノバクタム系以外の β -ラクタム系抗菌薬すべてを加水分解する酵素です。MBL 産生菌は β -ラクタム系薬では治療できないとされています。

また、MBL 産生遺伝子は菌から菌に伝達される場合があり、菌種を超えて耐性が伝播します。*Pseudomonas aeruginosa* をはじめとして、*Pseudomonas putida/fluorescens*、*Serratia*、*Enterobacter*、*Citrobacter*、大腸菌など多くの菌種で見られます。

当検査センターホームページでは細菌検出状況(検査材料別)、細菌薬剤感受性情報(菌種別)、薬剤耐性菌分離状況情報についての情報をご覧いただけます。http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/

検査科微生物係